

高知カツオ県民会議 シンポジウム

令和6年度



令和6年

日時

12月8日 日

先着
100名様

14:00▶16:30(開場/13:30)

場所

高知城ホール(4Fホール)

高知市丸ノ内二丁目1番10号

ここ数年、高知でのカツオ漁獲量は安定的に推移されていますが、依然として熱帯域における巻き網漁船による大量漁獲、また、気候変動に伴う海の温暖化による水産資源の減少が懸念されています。本シンポジウムでは、カツオ資源の状況を共有すると共に、カツオの価値の再認識及び持続可能なカツオ資源の在り方を議論していく場としたいと考えています。

ご参加いただいた皆様に
カツオのお土産があるよ!

参加費 無料

お申し込み〈一般〉

入場ご希望の方は、メールで ●氏名 ●所属 ●役職 ●連絡先 を
ご記入の上、お申し込みください。

✉ kssa@kochi-katsuo.com

お申し込み締切日 12月2日(月)

お問い合わせ 高知カツオ県民会議事務局

高知カツオ県民会議

検索

www.kochi-katsuo.com



〔主催〕



高知カツオ県民会議

〔後援〕



日本カツオ学会

プログラム

14:00 ● 開会挨拶

山崎 道生 高知カツオ県民会議 会長 | (株)山崎技研 取締役会長

14:05 ● 基調講演

「2024年のカツオ漁の特徴と来期の動向」

講師 / 二平 章 (にひら・あきら)
日本カツオ文化研究所

北海道大学卒業後、茨城県水産試験場首席研究員、立教大学兼任講師、北日本漁業経済学会会長などを歴任。現在、茨城大学人文社会科学部客員研究員。カツオの行動生態学的研究で水産海洋学会宇田賞、農学博士(東京大学)。カツオ一本釣り漁業・カツオ食文化の大切さを発信するシンポを全国各地で企画開催。来年は気仙沼市で「カツオ漁伝来350年記念シンポ」(7月)、鹿児島県指宿市で「第5回カツオまつりサミット」(12月)を開催予定。近刊の共編書に「土佐カツオ漁に生きた男たち」(飛鳥)、世界の食・農林漁業・環境第3巻「ほんとうのエコシステムってなに?」(農文協)などがある。

15:05 ● 休憩

15:15 ● パネルディスカッション

「鰹の國・高知を
陰で支える達人たちとの本音トーク」

パネリスト



川島 昭代司

企画・ど久礼もん企業組合 会長
鰹の國 陣や 〜薫焼きたたき伝承館〜 草履取締役

高知県中土佐町生まれ。
中学卒業後漁師になる。28歳で飲食店を開業。33歳の時には歌手として「夜のヒットスタジオ」出演。39歳でマンガ家としてビッグコミックに作品が掲載。2007年60歳の時に「企画・ど久礼もん企業組合」を立ち上げる。
久礼の特産品を活かした商品開発などで2013年には地域づくり総務大臣表彰をされるまでに。



梶原 弘資

土佐打刃物 黒鳥鍛造工場 六代目

高知県四万十町生まれ。
大工や板金工といった職人仕事を経験した後、家業である「黒鳥鍛造工場」の六代目に。
若手鍛冶師の人材育成にも積極的に取り組んでいる。
黒鳥鍛造工場の手がける刃物は農具や林業刃物など暮らしに欠かせないものが中心。刃物を使う人に寄り添うため、「安く・早く・上手く」という先代の教えを守りながら、相手が理想とする形を実現する鍛冶師だ。



八田 大輔

高知新聞社 記者

神奈川県生まれ。46歳。
2009年高知新聞入社。幡多支社、須崎支局を経て2015年から本社報道部。水産、釣り、災害分野などを担当。2016年からシリーズ企画「カツオと生きていく」を継続中。

ファシリテーター

黒笹 慈幾 高知カツオ県民会議 幹事会幹事 | 南国生活技術研究所 代表

16:30 ● 閉会